

加温ハウス栽培「大将季」の汚れ果症に対する薬剤防除開始時期

加温ハウス栽培「大将季」の汚れ果症は、ジマンダイセン水和剤の散布を4月下旬に開始することで汚れ果症の発生を軽減できる

背景・目的

- ・加温ハウス栽培「大将季」では、汚れ果症の発生による商品化率の低下が問題となっている
- ・汚れ果症の発生には果実の濡れ、湿度等が影響することが知られているが、特定の病原菌による病害であるかは不明
- ・しかし、殺菌剤の散布により、汚れ果症の発生が抑制されるため、ジマンダイセン水和剤の効果的な散布時期を明らかにする

成果の内容

表1 汚れ果症に対するジマンダイセン水和剤の散布時期

年度	試験区	供試薬剤	希釈倍数	散布時期				
				4月26日	5月23日	6月24日	7月25日	8月25日
H28年	4-6月3回散布区	ジマンダイセン水和剤	600	○	○	○	—	—
	7-8月2回散布区	ジマンダイセン水和剤	600	—	—	—	○	○
	4-8月5回散布区	ジマンダイセン水和剤	600	○	○	エムダイファー水和剤	○	○
	無散布	—	—	—	—	—	—	—
				4月25日	5月26日	7月1日	7月27日	9月2日
H29年	4月散布開始区	ジマンダイセン水和剤	600	○	○	○	ストロビーDF	ナリアWDG
	5月散布開始区	ジマンダイセン水和剤	600	—	○	○	○	ナリアWDG

注) 1 H28年は果樹部施設ほ場、H29年は出水市野田の現地施設ほ場
2 平成29年7月27日、9月2日は後期黒点病対策で農薬散布を行った

・4-6月3回散布区は、4-8月5回散布区と同等で、規格外品となる発生程度3(図1)以上の発生果率が低いが、7-8月2回散布区では防除効果が劣る(図2)

・4月散布開始区では、5月散布開始区と比較して規格外品となる発生程度3以上の発生果率が低い(図2)

期待される効果

- ・汚れ果症発生を軽減し、秀品率が高くなる

鹿児島県農業開発総合センター生産環境部病理昆虫研究室

導入メリット



図1 汚れ果症の症状(発生程度3)

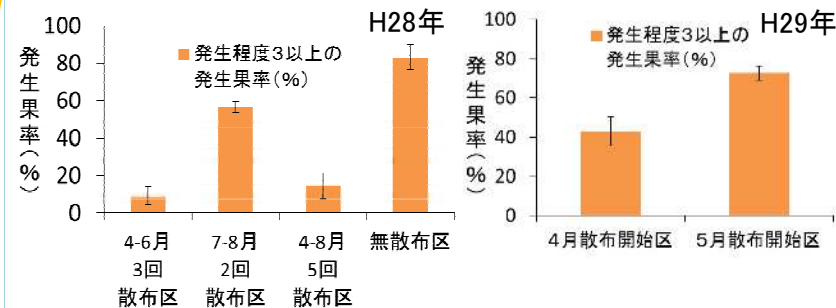


図2 H28, 29年の散布時期の違いによる汚れ果症の発生

普及対象・範囲

加温大将季、加温不知火を栽培する生産者